

3月9日、会議冒頭挨拶（機構理事長）

皆さん、おはようございます。北は北海道から南は沖縄県まで、遠方※からの方も含め、また、事業者、警察はじめ関係官庁、有識者等々多くのフィールドの方々にお越しいただき、嬉しく思います。

さて、この会議は、万引問題を憂える多くの方々のご支援、ご協力の上に成り立っています。セキュリティーショーの場をお貸しいただいた日本経済新聞社をはじめ、ご協賛いただいた事業者、団体、個人、また、汗をかいていただいた方々など、数多くの方々の献身的な貢献があつてこそ、今日に至ることができたと、心から感謝申し上げます。

そして、何より、はるかアメリカ各地から駆けつけてくれたゲストの皆さんに、敬意を表したいと思います。ありがとうございました。

ところで、私たちは、おそらく一人残らず、万引問題に苦しめられ、怒りを持ちながらも、あきらめや敗北感にさいなまれてきました。その姿は、あたかも悪魔の影におびえながら、孤独な戦いを強いられているやせ細ったヤギの群れを想起させます。

しかし、私たち人間には、苦難に抗する意思と知恵があります。孤独な戦いから、ともに戦うことへの大きな転換を可能にすることができます。この先例は、アメリカにありました。そしてわが国でもその萌芽が育っています。被害者である事業者相互はもちろん、警察はじめ関係行政機関、地域の方々などが、「ともに」万引問題を解決するこれまでにない力を作り出すことが、今、我々に求められていると思います。

この会議は、そのための第一歩です。多くの情報を共有しましょう。そして、万引問題に有効に対処するための具体的方策を探り出し、我々の共通認識にして、今後の取り組みに生かしましょう。そのキーワードは、あくまでも、「ともに」です。

最後に、改めて、多くの方々のご協力に感謝を申し上げ、私の挨拶とします。

※海外からは米国だけでなく韓国やスウェーデンからの参加がありました。